

目的 既存の婦人服用胴部原型の、体型差や個人差による使い分けを可能にするためには、先ず多種多様の原型を総合的に把握する必要がある。そこで、本報では学校や家庭で用いられてきた各種原型を出来るだけ多く蒐集し、それらを多方面から検討し、その特徴の分類把握を試みた。

方法 1. 採寸法、作図法の相違に基づく分類。 2. 立体の表面(曲面)構造の特徴に基づく分類。①大きさ(size) — 原型の周長、所定寸法等の大小関係からみた分類。②形状(shape) — 極座標表示したものの主成分分析による分類。

結果 1. 静的分類: 各原型の採寸箇所、数、バストポイント、前下り、ダーツの有無等の相違について一覧表が作成された。 2. 量的分類: 身頃の前後別に原型の縦、横および周長の所定寸法を求め、平均値、標準偏差を得ることにより、各種原型のサイズが分類され、サイズからみた原型間の特徴を比較することが出来た。 3. 質的分類: 各種原型を一旦立体化した上で同一手法による再平面展開を行うことにより、原型の形状を類型化し、その大きさを極座標表示であらわし、座標の各点位置を構成因子とする原型寸法を得る。これから主成分分析法により、原型の特徴を80%カバーする3主成分を得た。またあらためて3主成分であらわさるる各種原型をクラスタ分けすることが出来た。なお、第1主成分は体の丸みと、第2主成分は袖剣や衿剣と各々関係しているようである。第3主成分の内容は、はっきりしない。